

2 「家庭生活での男女共同参画の実現を考えよう」（女性の人権／男女共同参画）

実践する場面

- (1) 対象者 人権教育担当職員、地域住民等
- (2) 所要時間 80分

活動のねらい（ポイント）

- (1) 社会や自分の中にあるジェンダー意識に気づき、固定的性別役割分担にとらわれることなく、家庭生活の充実のために男女が共同参画していくことが大切であることを知る。
- (2) 家庭生活の男女共同参画の実現のためには、社会生活における男女共同参画社会の推進が必要であることに気づく。

準備するもの

ワークシート1～2

進め方（展開例）

| 時間 | 学習の流れ（活動・内容） | 留意事項 | 備考（資料） |
|--|--|---|--|
| 導入 15分 | <p>◆学習の確認（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会のねらい ・日程 ・参加体験型学習における約束 <p>◆アイスブレイキング（10分）</p> <p>「ちがいのちがい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例について、「あってもよいちがい」「あってはいけないちがい」「どちらともいえない」どれにあたるかグループで話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・【参加体験型学習の約束】の内容を伝える。 →P9 ・4人程度のグループで行う。 ・ワークシート1、2を配付する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート1、2 →P21、22 |
| <p>（事例）①子育ては母親の仕事だ。 ②レディースデイはあるが、メンズデイはない。 ③姉は料理の手伝いをお願いされ、弟はされない。</p> | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介を兼ねて、グループ内で協力・相談することで、この後のアクティビティをやりやすい雰囲気にする。 ・ジェンダーバイアスについて考える。 | | | |
| 展開 55分 | <p>◆アクティビティ1（15分）</p> <p>「ジェンダーバイアスを認識しよう」</p> <p>①ワークシートの20項目は、社会の中で『女らしさ、男らしさ』のどちらにあてはまると考えられているかグループで考える。</p> <p>②20項目を『自分に当てはまるもの・当てはまらないもの』にわけて、感じたことをグループで話し合う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・個人的な考えでなく、社会の中で考えられる『女らしさ、男らしさ』に分類するよう促す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート1 →P21 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・『女らしさ、男らしさ』より、『自分に当てはまる、当てはまらない』の方が多様であることに気づく。 ・自分らしさを尊重し合える関係が、大切であることを共有する。 | | | |

| | | | |
|--|---|--|---|
| | <p>◆アクティビティ2（40分）</p> <p>「家庭生活における男女共同参画を実現させよう」</p> <p>①「自分の家庭に限らず一般に『夫が外で働き、妻が家を守る』べきだと思う」と「女性無業者の就業希望状況」のグラフを見て、女性が働くことについて考える。</p> <p>②各自の考えをグループで報告し合う。</p> <p>③「6歳未満の子どもを持つ夫婦の家事・育児関連時間（1日あたり）」のグラフを見て、感じたことをグループで話し合う。</p> <p>④男性が家事や育児などに関わるために必要なことを個人の努力でできること、社会が改善していくことをグループで話し合う。</p> <p>⑤グループで話したことを全体で共有する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・固定的性別役割分担に対する考え方の現状と女性自身の働くことに対する意欲を踏まえて考えるよう促す。 ・男性の家事・育児関連時間の少ないことを踏まえ、男性の家事協力を可能にすることについて考えるよう促す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート2 →P22 |
| <p>まとめ 10分</p> | <p>◆まとめ（10分）</p> <p>①学習を振り返って考えたことや感じたことを共有する。</p> <p>②まとめの話を聞く。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・活動のねらい（ポイント）を押さえる。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・固定的性別役割分担の考え方にとらわれなくなりつつあることに気づき、女性自身の就業希望の状況を知ることにより、女性が働くことについて考える。 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・固定的性別役割分担の考え方にとらわれない傾向であるが、男性の家事・育児時間は極端に少ないことを知る。 ・家庭生活への男女共同参画を可能にするためには、職業生活等においても男女共同参画の推進が大切であるとともに、社会が改善する必要があることに気づく。 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・自分らしく生きるためには、皆がお互いを尊重し、個性と能力を發揮できる男女共同参画社会の実現に向け各自が努力するとともに、仕事と生活の調和が実現できる社会づくりが必要となっていることを知る。 | | | |

<参考資料など>

- 「ともに生きる社会 ともに参画する社会へ 神奈川男女共同参画推進プラン（第4次）」
 神奈川県福祉子どもみらい局人権男女共同参画課（平成30年3月）
- 「人権学習ワークシート集Ⅶ—人権教育実践事例・指導の手引き（高校編 第16集）」
 神奈川県教育委員会教育局行政部行政課・高校教育課（平成31年2月）

家庭生活での男女共同参画を実現させよう

1 ジェンダーバイアスを認識しよう

(1) 次の20のことばや行動は、社会の中では「女らしさ・男らしさ」のどちらにあてはまると考えられていますか。グループで考えて分けてみましょう。

- | | | | |
|--------|------------|-----------|---------|
| 1 活動的 | 2 おとなしい | 3 リーダーシップ | 4 従順、従う |
| 5 経済力 | 6 家事 | 7 弱音を吐かない | 8 強がらない |
| 9 決断力 | 10 人の意見を聞く | 11 度胸 | 12 愛嬌 |
| 13 闘争心 | 14 協調性 | 15 守る | 16 守られる |
| 17 理性的 | 18 感情的 | 19 強い | 20 やさしい |

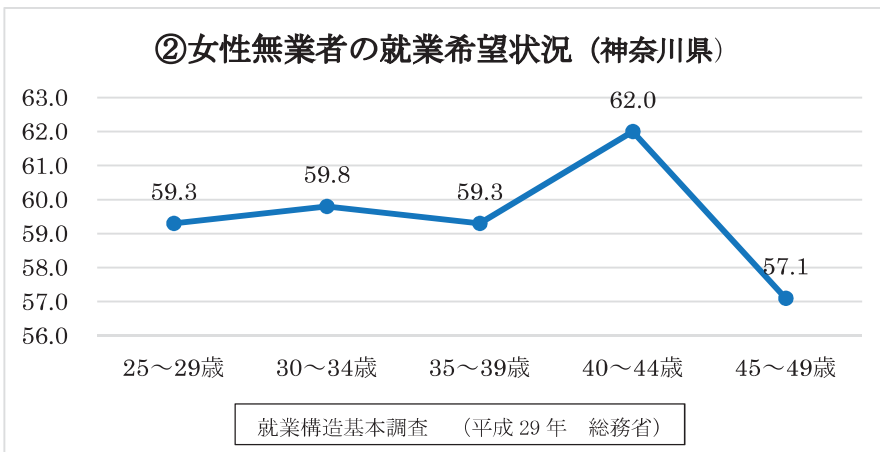
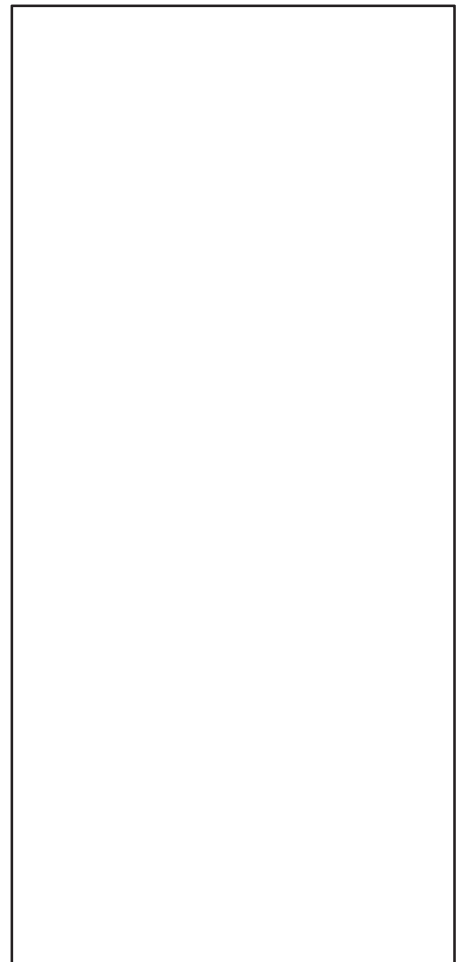
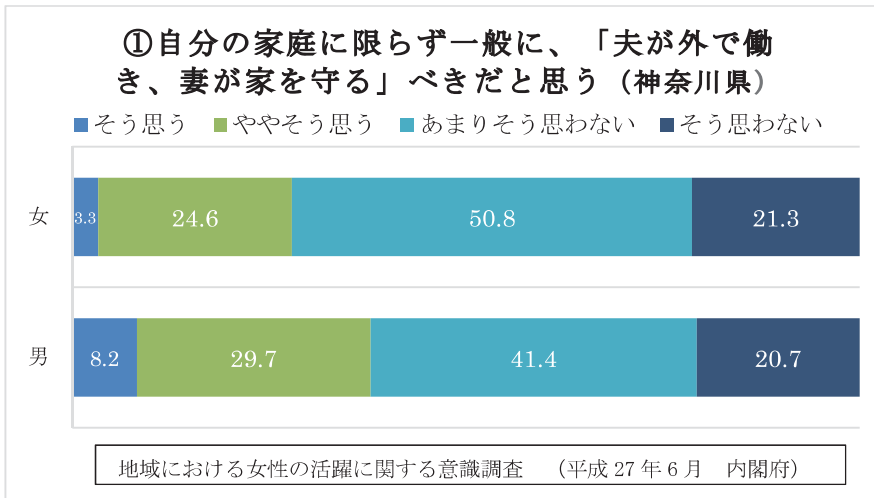
| 女らしさ | 男らしさ |
|------|------|
| | |

(2) (1) の1～20の項目を「自分にあてはまるもの・自分にあてはまらないもの」についてわけて、感じたことをグループで話し合みましょう。

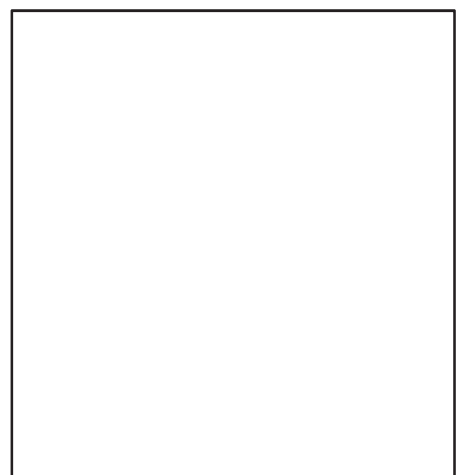
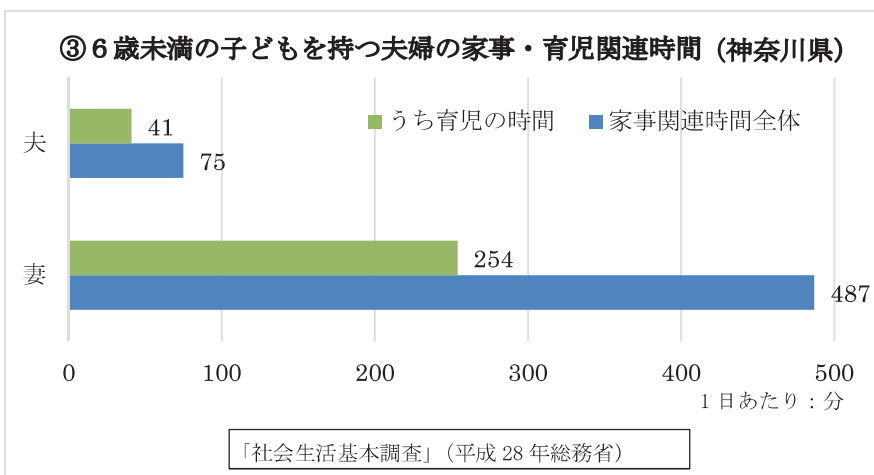
| 自分にあてはまるもの | 自分にあてはまらないもの |
|------------|--------------|
| | |

2 「家庭生活における男女共同参画を実現させよう」

(1) 次の①「自分の家庭に限らず一般に、『夫が外で働き、妻が家を守る』べきだと思う」と②「女性無業者の就業希望状況」のグラフを見て、女性が働くことについて考えましょう。



(2) 次の③「6歳未満の子どもを持つ夫婦の家事・育児関連時間（1日あたり）」のグラフを見て考えましょう。



(3) 男性が家事や育児などに関わるために必要なことを個人の力でできること、社会で改善していくことについて考えましょう。

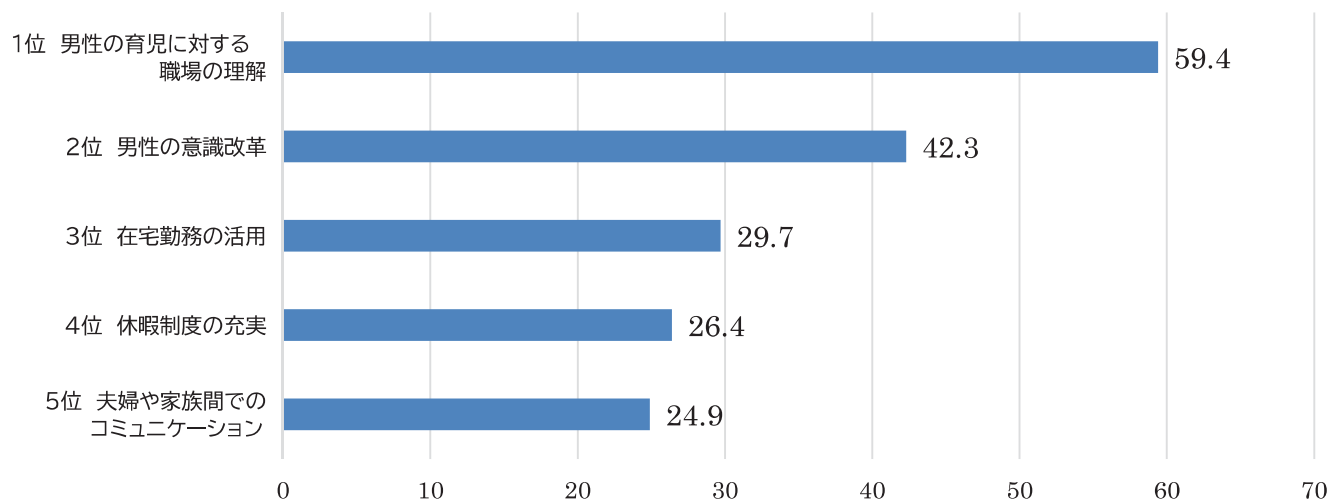
| 個人 | 社会 |
|----|----|
| | |

ワーク・ライフ・バランスをめぐる状況と男女共同参画社会の実現

性別・年齢にかかわらず、誰もが、家庭や職場、地域などにおいて、子育て期、中高年期といった人生の各段階で多様な生き方を選択し、充実した生活を送るためには、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が重要です。長時間労働は、心身の健康を害するリスクを高め、社会の活力を低下させるだけでなく、仕事と家庭の両立を困難にします。

このような長時間労働は、男性の家庭生活への参画を阻み、結果として家事・育児等に関する女性の負担を増加させています。近年では改善の兆しも現れていますが、日本の夫の家事・育児時間は、海外に比べて未だ極端に短くなっています。男性が育児に関わるために必要なことについての神奈川県のアナケートでは、次のようになっています。

男性が育児に関わるために必要なことについて：神奈川県(%)

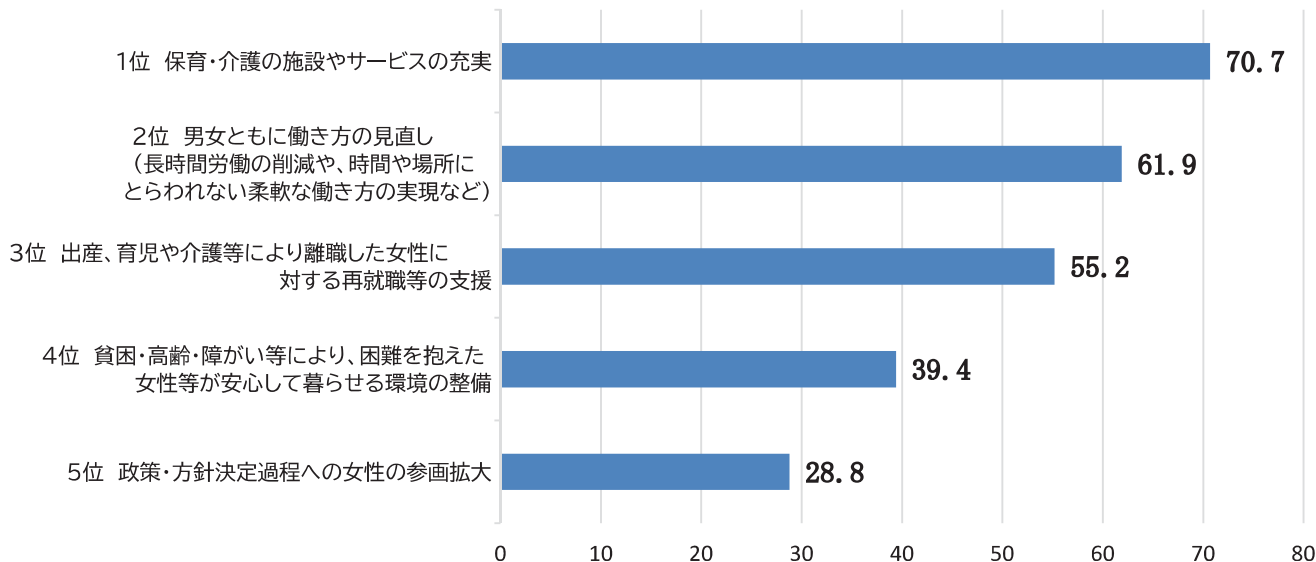


「県民ニーズ調査」(令和2年 神奈川県)

男女ともに多様な生き方を選択できる社会を実現するためには、育児・介護の基盤整備は不可欠です。神奈川県意識調査の結果でも「保育・介護の施設やサービスの充実」は、男女共同参画社会の実現に向けて最もニーズの高い施策となっています。

近年、晩婚化や晩産化等を背景に、子育てと同時に親の介護を担う、いわゆる「ダブルケア」問題も指摘され、企業をはじめとした育児・介護を支える社会的基盤の整備には一層の充実が求められています。

男女共同参画社会実現のために力を入れるべき施策：神奈川県(%)



「県民ニーズ調査」(平成28年 神奈川県)